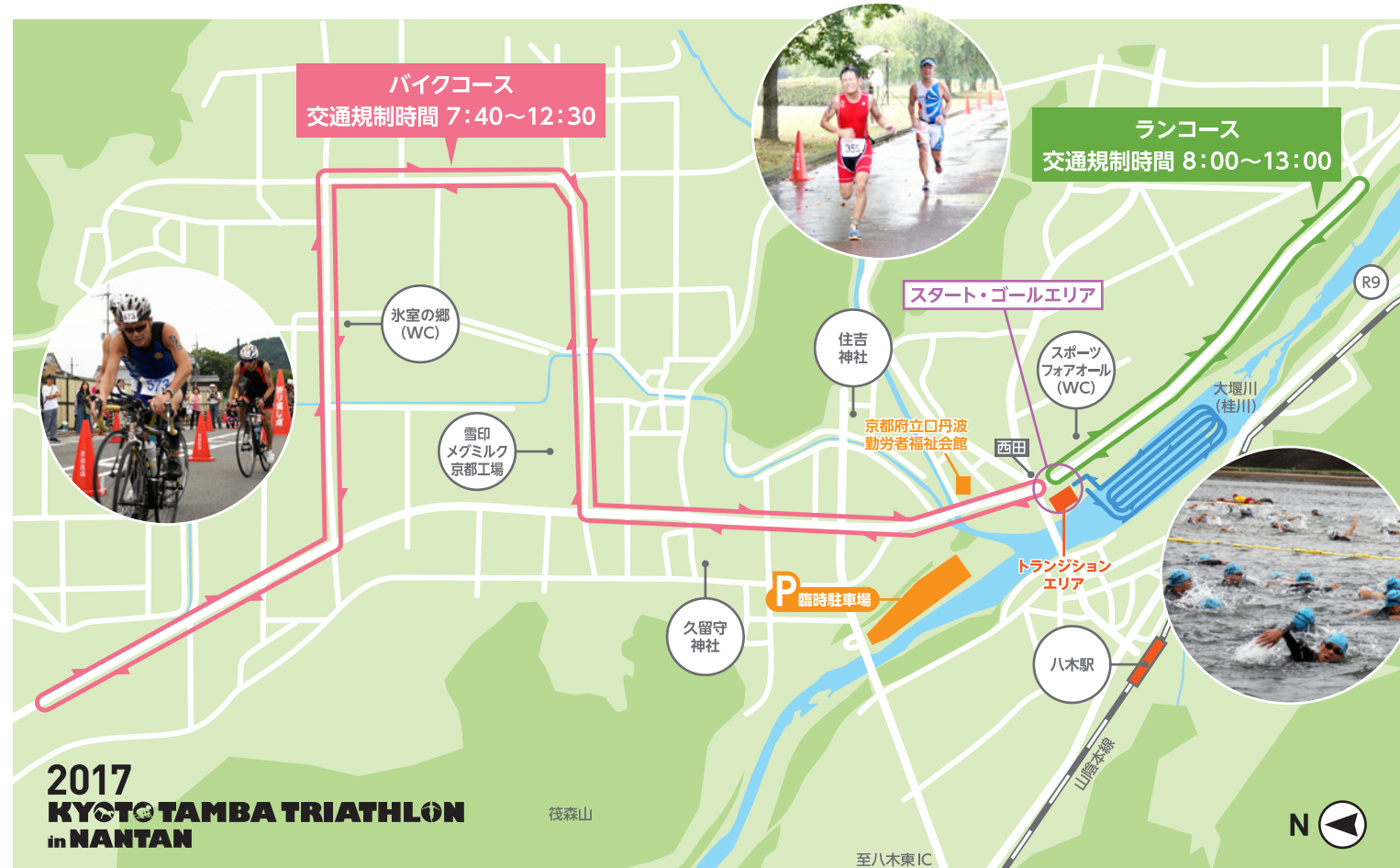


# 完走目指し 丹波の自然に挑む 京都丹波トライアスロン大会 in 南丹



— スイムコース：大堰川(桂川)を泳ぎます。 — バイクコース：諸木山の麓にある田園エリアのストレートコースを駆け抜けます。  
 — ランコース：大堰川(桂川)沿いのフラットコースを走ります。



「第3回京都丹波トライアスロン大会 in 南丹」(京都丹波トライアスロン大会実行委員会主催)が28日に南丹市八木町で開催される。大堰川を起点としたフラットかつストレートなコースで、約500人が各種目で完走に挑む。

トライアスロンはスイム、バイク、ランの3つのパートを一人で続けて行うというシブなスポーツ。近年は全国各地でトライアスロン大会が開かれていて、ほとんどの大会でそれぞれの力量に応じた種目に参加できるようになっている。またトライアスロンは気温、水温、風、地形、湿度など、自然の影響を大きく受けるため、タイムはあくまでも目安であって、自分自身のベストを尽くせるかがその醍醐味と言われている。

同大会には、スタンダードディスタンス、スプリントディスタンス、スーパーディスタンスの4種目がある。スタンダードディスタンスは、オリンピックディスタンスを合わせた総距離は51・5キロにも及ぶ。この他の3種目はスタンダードディスタンスに比べ、距離が短い設定となっている。4種目を行う大会は全国的に見ても珍しく、初心者でも挑戦しやすい大会となっている。また、フラットかつストレートなコースが特徴で、レースはハイスピードで展開されるため、バイクのスピードは大会の見どころの一つとなっている。

スイム会場となる大堰川を中心に、コース周辺は豊かな自然に囲まれており、その中でレースを展開することも大会の魅力として挙げられる。大会当日には、丹波のグルメを楽しめるマルシェも開かれ、豊かな森資源に育まれた南丹市ならではの大会となっている。

「第3回京都丹波トライアスロン大会 in 南丹」(京都丹波トライアスロン大会実行委員会主催)が28日に南丹市八木町で開催される。大堰川を起点としたフラットかつストレートなコースで、約500人が各種目で完走に挑む。

京都丹波トライアスロン大会 in 南丹 種目一覧	
種目	距離/制限時間(スイムスタートから)
スタンダードディスタンス	スイム 1500m / 50分
	バイク 40km / 160分
	ラン 10km / 240分
スプリントディスタンス(ドラフティングレース)	スイム 750m / 15分
	バイク 18.4km / 00分
	ラン 5km / 80分
スーパープリントディスタンス	スイム 375m / 5分
	バイク 10km / 45分
	ラン 2.5km / 60分
スーパープリントリレー	スイム 375m / 15分
	バイク 10km / 45分
	ラン 2.5km / 60分

## 初心者もハイレベルな選手も、スタートラインとゴールは同じ場所にあります。

佐々木 政治氏  
 京都府トライアスロン協会副理事長



近年、全国各地でトライアスロン大会が開催されています。これはトライアスロンが生涯スポーツであるということが認識され始めているからだと考えています。本大会は、各地を転戦するトップ選手だけでなく、誰もが挑戦できる初心者でも楽しい大会を目指しており、選手や地域の方々とコミュニケーションを大切にしている運営をしています。トライアスロンと聞くと鉄人レースなどと連想されるようですが、そんなことはありません。それどころか、「泳ぐ、自転車に乗る、走る」といった運動は、幼い頃からみんながやっていること。

そして、トップ選手も初心者もスタートラインは一緒です。相手との競争ではなく、自分の限界に向き合い、時には出場者たちが称え合います。スタート時の水しぶきやバイクのスピード感、最後の気力を振り絞るラン。そんなトライアスロンならではの人間ドラマをぜひご覧ください。

## 南丹には大自然というスタジアムがあります。

麻田 健治氏  
 南丹市体育協会会長



地域にスポーツを根付かせるためには、まずトップアスリートを誘致することが大切だと考えています。本大会を開催する以前には、カヌー競技のトップアスリートを誘致しました。そうしたつながりは今も絶えることなく、アスリートと地域の絆になっています。もともと南丹市には大堰川をはじめとする豊かな自然があり、それらを上手く活用するべきだと考えていました。自然を活用すれば新しい施設は必要ありません。ハードに頼らないスポーツ振興は南丹市だからこそできるといえ、本大会はその第一歩となっています。スポーツは「する」「見る」といった観点から語られることが多いですが、最も大切なのは「支える」ことではないかと思えます。支える、支えられるといった心のつながりが、地域を元気にするはずで、スポーツの多様な楽しみ、その選択肢の提供はわれわれの仕事だと考えています。

## 近い、広い、美味しい。里山の恵みがつまった大会が実現。

佐々木 稔納氏  
 南丹市長



南丹市は淡路島よりも面積が大きく、他県との県境では海を望むこともできます。四町が合併して誕生した南丹市ですが、それぞれで気候や風土、景観が全く異なります。昨年、南丹市にもまたがる丹波高原が国定公園に指定されましたが、現在に至るまで景観が守られてきたことが指定理由でした。先人が守り続けてきた豊かな自然が残る南丹市ですが、都心部からも近い距離にあります。他を見回してもこんなところは少ないのではないのでしょうか。地域が誇る豊かな自然を生かし、トライアスロンが開催できることはとても意義深く、市にとって大きなイベントと位置付けています。当初は「川でできるのか？」という声もありましたが、関係者の皆さんのご努力と、地域の皆様のご協力で実現することができました。また、夏のあゆや冬のイノシシ、シカといった食も大きな魅力と言えます。大会を通じて地域の魅力を知っていただければと思います。